

# 奥多摩むかし道ハイキング

(奥多摩湖～奥多摩駅、奥多摩の紅葉)

休日ハイキング同好会

担当：高相

11月19日(土) 予備日無し

中野島駅前 7:25 集合

< 昼食：弁当 >

交通費は2,230円  
参加・不参加の連絡は不要です。

JR 南武線 青梅線	中野島 駅	発	7:39	¥935 (IC)	
	立川 駅	着	8:05	発	8:12
	奥多摩 駅	着	9:18	快ホ：おくたま3号	

バス 奥多摩駅9:30→奥多摩湖9:45 \360

ハイキング など	奥多摩湖	(25分)	
	水と緑のふれあい館	出発	10:10
	水根沢遊歩道	(20分)	10:30
	浅間神社	(40分)	11:10
	<昼食> *	(20分)	
	しだくら吊橋	(50分)	12:20
	白髭神社	(30分)	12:50
	槐木(さいかちぎ)	(50分)	13:40
	南氷川入口	(30分)	14:10
	奥多摩駅	(10分)	14:20

JR 青梅線 南武線	奥多摩 駅	発	14:43	¥935 (IC)	
	青梅 駅	着	15:22	発	15:23
	立川 駅	着	15:51	発	15:59
	中野島 駅	着	16:24		

※奥多摩駅15:12電車の場合は  
中野島帰着16:59予定です



- ◇ 中野島駅前7:25集合(7:39電車で出発)、昼食持参です。  
昼食は西久保見晴し広場(11:20頃)を予定しています。
- ◇ 奥多摩湖を散策後、水根から奥多摩むかし道を歩きます。  
奥多摩むかし道は紅葉がちょうど見頃ではないかと思えます。  
歩行距離は約10Km、歩行時間は約4時間です。ハイク道は整備されていて危険箇所はありません。
- ◇ バスで奥多摩湖まで行って、奥多摩駅までの下りハイキングです(最初に少しの登りがあります)。  
お姉さまでも大丈夫です。状況によって途中「梅久保」「橋詰」などで離脱(バス利用)もできます。  
(奥多摩湖標高530m→青目立不動尊600m→奥多摩駅343mの高低差があります)
- ◇ 一応ハイキングの装備で参加ください(シューズ、防寒対策、降雨対策、お持ちの方はストックなど)。
- ◇ 「奥多摩むかし道」は、旧青梅街道と呼ばれていた道で、氷川から小河内までの道です。この街道は、小菅から大菩薩峠を越えて甲府に至る甲州裏街道で、甲州街道より8kmほど近道であったそうです。

# ★ハイキング行程(計画)

順路

## 奥多摩むかし道

「奥多摩むかし道」は、旧青梅街道と呼ばれていた道で、氷川から小川内に通ずるまでの道です。  
この街道は、小菅から大菩薩峠を越えて甲府に至る甲州裏街道で、甲州街道より8kmほど近道であったそうです。  
現在の青梅街道は、柳沢峠を越えて塩山(甲州市)に至る道で明治11年に開通しました。  
昔、小川内の生活は、塩山との交易で支えられていました。大菩薩峠の無人小屋で物々交換をしていましたが、一度も間違いはなかったそうです。  
その後、小川内の物産は、氷川への厳しい山道(14km)を避け、歩きやすい五日市(20km)に運ばれ、生活物資に変えられていました。峠沢(くさざわ)から風俣峠に出て、浅間尾根を通り、本宿に下りて五日市に向かう道を通りました。  
明治32年に、小川内と氷川間が、わりと平坦な山腹を通る道に改修され、道のりも10kmに短縮、交易ルートが氷川へと変わりました。以降、木炭の生産が飛躍的に増加しました。  
この後も氷川への道は、たびたび改修され生活の道となったのは大正から昭和初期に入ってからです。  
昭和13年、氷川～西久保間にダム建設資材輸送専用として造られた道路が昭和20年に一般道として開放され、現在の国道411号線になりました。



**奥氷川神社**  
真淵三氷川社の一つ奥社。祭神は八咫大蛇(ヤマタノオロチ)を退治した速瀧彦之男命(はやすさのおのみこと)とお祀の權稲田姫命(くしなだひめのみこと)。境内の三本杉は樹齢650年で樹齢末期のもので、東京都で一番樹高があり、天然記念物に指定されている。

**羽黒坂**  
古社羽黒三田神社の神門前の坂。木炭運びの人、馬、車が苦労した所。羽黒三田神社は、羽黒権現(祭神は鳥羽権現(うがのみたまのみこと))と穴沢天神を祀り、平将門の子孫という藤原三田氏が尊崇した所。

**槐木(さいかぢぎ)**  
サイカチ(マメ科)の巨樹があり、地名の由縁。羽黒坂を登りつめた休み場として賑わった。光背形馬頭観音像がある。槐はエンジュと読むが、サイカチに刺があることから、木の先に立ってた当て字のような。

**不動の上滝**  
旧道下に不動尊が祀られてあることから、不動の上滝として行き交う人々に安らぎを与えてきた。落差約7m。

**白髭神社**  
郡指定の白髭の大神の御霊に社殿がある。祭神は塩土翁神(しおつちのおきなのかみ)で、神武天皇に贈りし器大和をお勤めしてご案内した神。

**耳神様**  
因縁が不自由な頃、耳痛れや耳鳴りのときは、穴のあいた小石を見つけて供え、一心に祈ったという。

**弁慶の腕ぬき岩**  
猿が入るほどの穴のある自然石。弁慶がぬいたものとして親しまれてきた。

**コース概要**  
奥多摩駅～奥多摩湖  
距離：9.4km 所要時間：4時間

**区間情報**

地名	目安標高
奥多摩駅	340m
	↓ 1.2km(0:40)
槐木	410m
	↓ 1.2km(0:30)
橋詰バス停	360m
	↓ 1.7km(0:30)
いろは楓の巨樹	400m
	↓ 2.9km(0:50)
西久保の切り替えし	450m
	↓ 2.4km(1:30)
奥多摩湖	520m

(一社)奥多摩観光協会 東京都西多摩郡奥多摩町氷川 0428-83-2152  
作成：平成28年2月20日

## 奥多摩むかし道

- 虫歯地蔵**  
歯医者がいなかった昔は、歯痛には煎った大豆を供えて、平癒を祈ったというお地蔵様。
- 道祖神**  
道路や旅人の守護神。石で象徴し、村境や峠・辻に建て、外から来る悪鬼邪心を防ぐ神として信仰されてきた。
- 玉堂歌碑**  
川台玉堂(明治6年生まれ)は、日本画家で帝國美術院会員。山村や自然を懐疑心に描き、短歌もよくし、歌集も残している。昭和32年84歳で没。
- 青目立不動尊休み処**  
古民衆の存まいをもつ食卓です。奥多摩湖の眺めがよい場所にあります。青目立不動尊は修験道印(山岳修行の最高位の印)の奥平家で、不動明王を祀り、悪魔退散、衆生済度と村人を守護し、光明を与えてきました。

- いろは楓**  
カエデ科のイロハカエデで、樹齢200年の巨樹が三本。11月下旬頃が見頃。
- 惣岳(そうたけ)の不動尊**  
明治時代、水堀の法印奥平家と惣岳の奥平家によって成田不動尊が勧誘され、昭和10年に現本殿・覆舟を再建。
- 殿道(かんどう)の馬頭様**  
人ひとりが通れるほどの狭い旧道では、多くの馬が谷へ落ちたという。そのたびに供養塔が建てられていった。
- 縁結び地蔵尊**  
符来のよき伴侶との縁結び成就を祈願したというお地蔵様。
- 馬の水のみ場**  
ここで馬を休ませ、馬方ははたは茶屋でいっぶく。一杯酒もあったとか。大鳥籠、しみず、ローの三軒があった。
- 牛頭(ごず)観音**  
旧道の峠所にある観音様で、牛馬の通行の無事無難を祈った観音様。

**コース概要**  
奥多摩駅～奥多摩湖  
距離：9.4km 所要時間：4時間

**区間情報**

地名	目安標高
奥多摩駅	340m
	↓ 1.2km(0:40)
槐木	410m
	↓ 1.2km(0:30)
橋詰バス停	360m
	↓ 1.7km(0:30)
いろは楓の巨樹	400m
	↓ 2.9km(0:50)
西久保の切り替えし	450m
	↓ 2.4km(1:30)
奥多摩湖	530m

